

## 新生児仮死の発達調査における問題

高 嶋 幸 男

新生児仮死の予後には、種々の程度があり、軽いものはNICUに入院する必要もなく順調に育つ一方、重症のものでは、NICUに入院し、積極的に集中治療されても後遺症を残すものがある。仮死の予後調査は施設毎に入院児を対象になされることが多く、地域ぐるみの予後調査はほとんどない。しかし、精神遅滞で神経外来を訪れるひとはNICU入院の病歴のないひとが多いために、地域ぐるみの予後調査をすることは重要であると考えられる。

鳥取県において、ハイリスク児の予後調査を地域単位に7年間続け、興味ある結果を多数得ると共に、予後調査の問題点もいくつか明らかとなった。新生児仮死児の発達予後調査を通して、その問題点の一部を述べる。

### 対象と方法

出生体重2,500g以上の成熟児で、生後1分のアプガースコア6点以下の新生児仮死例を対象とした。このうち鳥取県内NICUあるいはそれに準じる施設にて医療を受けた35例を入院群とした。死亡6例は対象から除外した。

一方、入院しなかった278例を非入院群とした。

予後調査は3歳児健診を利用し、発達評価に加えて発達アンケート調査を行い、運動、社会、言語性の3群に分析して、予後の観察を行った(表1)。

### 結 果

結果のまとめは表2に示す通りである。

発達に問題があったのは、入院群で、35人中4名(23.5%)であり、非入院群では、278人中24人名(8.6%)であった。脳性麻痺あるいは精神遅滞と診断されたものは、入院群、非入院群とも1名であったが、非入院群には発達遅滞5名、言語遅滞4名、発達境界14名、合計23名と多かった。

### 考 察

本研究は新生児仮死があつて、NICUに入院した群と入院しなかった群を発達調査し、入院しなかった群に発達問題児がかなり多いことを明らかにした。このことはNICUに入院するようなハイリスク児のみならず入院しないリスク児も追跡調査する必要があることを意味する。そして、これらのリスク児の予後が周産期の積

表1 発達アンケート質問項目(鳥取県3歳児健診)

運動(①, ②は粗大運動)

- ① 片足で2, 3秒立ちますか
- ② でんぐりがえりができますか
- ③ まねて○を書きますか
- ④ はしを使って食事をしますか

社会

- ⑤ 手を洗ったら自分で手をふきますか
- ⑥ オモチャのあとかたづけができますか
- ⑦ パンツがひとりではけますか
- ⑧ ひとりでオシッコにいきますか

言語

- ⑨ 自分の名前(性も、名も)をいえますか
- ⑩ ぼく、わたしを使いますか
- ⑪ 友達を○○ちゃんなどと呼びますか
- ⑫ 赤、青、黄、緑のうち、3つの色が分りますか

表 2 新生児仮死例の3歳における発達評価  
(出生体重 2500 g 以上)

	入院群		非入院群	
例数	35		*	
3歳受診	17	100%	278	100%
受診率 %	48.6		(91)	
脳性麻痺	1	5.9%	0	
精神遅滞	0		1	0.4%
発達遅滞	0		5	1.8%
言語遅滞	1	5.9%	4	1.4%
発達境界	2	11.8%	14	5.0%
発達上の問題あり計	4	23.5%	24	8.6%

\*：母数は不明

極的な管理によって改善されるかどうか検討の余地がある。発達障害児の問題解決にはこの点も十分配慮されるべきであろう。

さらに、この調査過程で情報の不足や不正確さがみられ、多くの疑問や問題が生じ、十分なデータを出せなかった部分がある。この調査では、アプガースコア6点以下で仮死としたが、アプガースコアには主観が入るので、客観性のある情報がもう一つでも加わるとより正確な仮死の評価ができると思う。前方視的追跡

調査では、今後考慮されるべきである。

仮死例に発達の問題児が多い訳であるが、新生児仮死の神経障害の発生要因には分娩時の低酸素・虚血の程度だけでなく、仮死をもたらす原因が予後に大きく関与している可能性がある。また、仮死には、低血糖症などの代謝異常、胎内感染を含む感染症、頭蓋内出血をはじめとする分娩損傷などの合併症がある。しかし、この調査は周産期の記録を調査したにもかかわらず、前方視的でないために、出生前および出生時の情報を十分まとめることができなかった。問診、診察、検査を含めた前方視的フォローアップをハイリスク、ローリスク児とも施行することは大変価値あることと考えられる。

## ま と め

新生児仮死の予後調査を地域単位に行い、NICUに入院しなかった群に、精神遅滞、発達遅滞、言語遅滞が多いことを認めた。その原因を知り、対策をたてるためには、ハイリスクのみならずローリスク児をも含めた前方視的調査が必要である。



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



新生児仮死の発達調査における問題

高嶋幸男

新生児仮死の予後には、種々の程度があり、軽いものはNICUに入院する必要もなく順調に育つ一方、重症のものでは、NICUに入院し、積極的に集中治療されても後遺症を残すものがある。仮死の予後調査は施設毎に入院児を対象になされることが多く、地域ぐるみの予後調査はほとんどない。しかし、精神遅滞で神経外来を訪れるひとはNICU入院の病歴のないひとが多いために、地域ぐるみの予後調査をすることは重要であると考えられる。

鳥取県において、ハイリスク児の予後調査を地域単位に7年間続け、興味ある結果を多数得ると共に、予後調査の問題点もいくつか明らかとなった。新生児仮死児の発達予後調査を通して、その問題点の一部を述べる。